

## 令和5年度の主な施策の進捗状況等

### 1 身体活動及び運動【動く】

<b>現状と課題</b>	<p>市民アンケート調査（R3）では、「ウォーキングやスポーツなどの運動をほとんど行わない」と答えた人が4割。</p> <p>こうした中、本市ではICTを活用し運動の習慣化を目指す<b>はつらつ健幸ポイント</b>に取り組んでいる。本事業の参加者には、平均歩数の向上（1日当たり約1,800歩増加）、有所見者の健診結果が改善（高血圧43%、中性脂肪60%、悪玉コレステロール33%）などの効果が現れている。</p>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>■<b>はつらつ健幸ポイントの実施（健康無関心層対策）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象（参加費）：18歳以上の市民または市内通勤者（年会費1,000円）</li> <li>・歩数、体組成の測定行為や測定結果、健診・検診や健康イベント等への参加に対してポイントを付与。</li> <li>・まちなか保健室や企業等と連携した周知・集客活動を実施。</li> <li>・新規1,248人（目標2,400人）。継続者と合わせて、約5,500人が参加中。</li> <li>・団体登録（健康運動教室など）42団体</li> <li>・事業登録（健康イベントなど）273事業</li> </ul> <p>■<b>体力測定・運動体験会（①依頼対応型・②設置型）</b></p> <p>目的：運動を始めるきっかけづくり。運動継続を支援。</p> <p>対象：市民グループや企業等。R4年度個別運動プログラム参加者</p> <p>内容：体組成測定、体力測定、筋力トレーニング・有酸素運動 スポーツチーム（ミネルバ宇部）と連携し実施。</p> <p>実施状況：①1回・15人 ②7回（うち6回実施済）・延べ55人</p> <p>■<b>その他（運動のきっかけづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の健康づくりイベント等で体力・体組成測定やウォーキングイベントを実施。</li> <li>・山口パッツファイブのホームゲームにて、握力測定・立ち上がりテストブースを出展（11月）</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p>■<b>ICTを活用した健康づくり事業</b></p> <p>はつらつ健幸ポイント事業参加者が、引き続き健康づくりに取り組めるよう環境維持や新たに利用者を増やすための取組（企業訪問など）を実施。</p> <p>■<b>特定保健指導対象者への働きかけ</b></p> <p>生活習慣病のリスクのある特定保健指導対象者に活動量計やアプリの利用を勧めることで、生活習慣病の発症及び重症化の予防を図る。</p> <p>■<b>運動のきっかけづくり</b></p> <p>チーム対抗の健康づくりイベントや体力測定のできる出前講座など、健康に無関心な方も楽しみながら参加できる取組を実施。</p>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>運動・スポーツ関係事業者、健幸アンバサダーなど</p>

## 2 栄養及び食生活【食べる】

<b>現状と課題</b>	<p>生活習慣病のうち、塩分の過剰摂取が原因となる疾病（心臓病、脳血管疾患）による死亡者が、がんに次いで多い（R元年度死亡率）。</p> <p>本県の塩分摂取量は国の基準と比較して多く、市民アンケート調査では、特に「塩分の多い料理を控えることを意識する人」の割合が低い。</p> <p><b>■1日の塩分摂取量</b></p> <p>基準：男性 7.5g 未満、女性 6.5g 未満（厚生労働省）</p> <p>本県：男性 9.5g、女性 8.1g（R4 県民健康栄養調査）</p> <p><b>■市民アンケート調査結果（R5年実施：981人）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩分の多い料理を控えることを意識する人：（R5）37.7%</li> <li>・野菜の摂取を心がけている人：（R5）62.3%</li> </ul>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>地域団体や企業等との連携や食生活改善推進員等の健康づくり人材を活用しながら、「へら塩ベジうべ作戦」推進事業として、野菜の適量摂取と減塩を推進することで、生活習慣の改善に取り組む人の割合の増加を目指す。</p> <p><b>■店舗常設啓発 POP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の適量摂取に関する POP を市内スーパー野菜売り場に 20 店舗設置。</li> </ul> <p><b>■へら塩ベジうべチャレンジ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進員協力による体験型教室 15 回</li> </ul> <p><b>■その他体験型の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に地区での取組 43 回</li> <li>・味噌汁・だし汁の試飲（味覚チェック）、塩分チェックシート、野菜計り体験、調味料クイズ、フードモデル展示</li> <li>・へら塩ベジうべ講座、高血圧予防講座</li> <li>・血圧・血管年齢測定、動脈硬化血管モデル展示等</li> </ul> <p><b>■啓発活動</b></p> <p>食生活改善推進員や企業と連携し、地区サロンやイベント等でパネル展示やベジチェック等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツコミッションフェスタ（10/9）</li> <li>・フジグラン宇部（6/1～4、9/23～24、10/12～16）</li> <li>・山口パッツファイブホームゲーム（11/18）</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p><b>■商業施設での啓発活動</b></p> <p><b>■体験教室、体験型の取組</b></p> <p><b>■地区での取組</b></p> <p><b>■働く世代の健康づくり</b></p> <p>市政情報出前講座による健康経営の推進を実施。</p> <p><b>■市民アンケート調査による行動変容状況の把握</b></p>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>食生活改善推進協議会、健幸アンバサダー、企業、スーパー等の店舗、教育機関、山口県栄養士会、市民活動団体、地域運営組織など</p>

### 3 心の健康づくり【楽しむ】

<b>現状と課題</b>	本市の自殺死亡率は、R3年、R4年は山口県、全国を上回っている。また、自殺者数は、H30年以降増加傾向にあり、年齢別の自殺者数では、令和になって以降、男性は20歳代、40歳代、女性は20歳代、30歳代が増加傾向にある。(厚生労働省：地域における自殺の基礎資料)
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>■<b>第二次宇部市自殺対策計画の策定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループ会議（関係機関14団体が参画） 第1回7/13、第2回8/24、第3回10/17実施</li> <li>・庁内連携会議（重層会議）4/27、7/27、8/24、9/28実施</li> </ul> <p>■<b>人と人との交流・社会参加の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご近所ふれあいサロンを実施。</li> <li>・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組を実施。</li> <li>・高齢者男性の社会参加を促す講座を授業形式で実施。全7回、生徒16人。 （宇部志立第二人生高校男子校）</li> </ul> <p>■<b>相談体制の充実と周知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク研修会及びゲートキーパー講座を開催。</li> <li>・メンタルヘルス相談（医師による対面相談）、保健師による相談対応（随時）</li> <li>・メンタルヘルス相談チラシの配布や市政情報メールやLINE、ウェブで相談窓口を周知</li> <li>・重層的支援体制整備事業による組織横断的な相談体制を整備。</li> </ul> <p>■<b>宇部市こころの健康企画の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色でわかるあなたのこころ講座、リフレッシュのピラティス体験会</li> </ul> <p>■<b>世界自殺予防週間（9/10～16）における重点的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報用チラシによる啓発。</li> <li>・市政情報メールやLINE、ウェブで相談窓口を周知。</li> <li>・自殺予防週間広報用ポスター掲示による啓発。（高校・大学）</li> </ul> <p>■<b>自死遺族の会 クローバーの活動周知（広報うべ4月号）</b></p>
<b>今後の取組</b>	<p>■<b>第二次宇部市自殺対策計画の策定・推進</b></p> <p>こころの相談窓口一覧の改定作成・周知など</p> <p>■<b>関係機関との情報共有と効果的な実施手法の検討</b></p> <p>地域におけるネットワーク強化、自殺対策に関する人材育成研修、住民への周知・啓発、メンタルヘルス相談を実施。</p> <p>■<b>若い世代への情報発信強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲートキーパー講座への若者参加を促進</li> <li>・SNSを活用した定期的な相談窓口の周知</li> </ul> <p>■<b>自殺対策強化月間（3月）に合わせた啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報うべ3月号に記事を掲載予定</li> </ul>
<b>協働・連携する 機関等</b>	通いの場（サロン）、相談機関、事業所、地域運営組織、健幸アンバサダーなど

## 4 歯及び口腔【磨く】

<p><b>現状と課題</b></p>	<p>生涯を通じて歯・口腔の健康を保つためには、かかりつけ医を持ち定期的に歯科健診を受診することが大切だが、市民アンケート調査では「過去1年間に歯の健診を受けた人」の割合が低下している。</p> <p>また、1歳6か月と3歳の健診結果を比較すると、虫歯罹患率が約17倍に増えており、乳幼児期からの予防が重要と考えられる。</p> <p><b>■市民アンケート調査結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去1年間に歯の健診を受けた人（H28）58%⇒（R3）55%</li> </ul> <p><b>■オーラルフレイルのリスクのない人の割合（75歳以上）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（R2）88.9%⇒（R3）92.1%</li> </ul> <p><b>■市民アンケート調査結果（R4実施：65歳以上2,537人）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「咀嚼機能の低下」リスクあり32.4%</li> <li>・「口腔機能の低下」リスクあり24.2%</li> </ul>
<p><b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b></p>	<p><b>■無料歯周病検診（歯周組織の検査、口腔衛生指導）の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20、25、…、65、70歳の方（5歳きざみ）、妊婦（妊娠中1回）が対象。</li> <li>・ポスター・ちらしを作成・配布。</li> <li>・市役所1階デジタルサイネージによる発信（11～12月）</li> </ul> <p><b>■フジグランでの歯科医師会との取組（無料歯科相談・栄養相談）</b></p> <p><b>■乳幼児への啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳6か月・3歳児健診での歯科健診及び口腔保健指導（歯科医師会と契約し、歯科医療機関で実施）</li> <li>・3歳児健診（集団健診）で、歯科保健パンフレット、歯みがき粉を配布。</li> <li>・あかちゃん訪問時、はじめての歯ぶらし啓発・配布。（乳児家庭全戸訪問事業）</li> </ul> <p><b>■高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施</b></p> <p>通いの場のプログラムに、歯科医師や言語聴覚士によるオーラルフレイルについての講座を取り入れ、21か所で実施。</p> <p><b>■各地区での取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康プランに基づき歯科医師会協力による歯科講座、生徒と共に取り組む虫歯予防など、4地区で16件の取組を実施。</li> <li>・地域健康づくり学習交流会「お口からはじまる健康づくり」を実施。</li> <li>・乳幼児、小・中学生、高齢者など、全世代を対象に様々な場で啓発や講話等を全24地区実施。</li> </ul>
<p><b>今後の取組</b></p>	<p><b>■歯周病検診の受診率向上、定期健診の受診に向けた啓発</b></p> <p><b>■ライフステージに応じた口腔保健の啓発</b></p> <p><b>■各地区での取組</b></p> <p>健康プランに基づき、地区での啓発や講座開催等を実施</p>
<p><b>協働・連携する 機関等</b></p>	<p>歯科医師会、歯科衛生士会、言語聴覚士、幼稚園、保育園、小・中学校、通いの場（サロン）、地域運営組織など</p>

## 5 保健指導、健康診断、がん検診等の疾病対策【受ける】

<b>現状と課題</b>	<p>病気の早期発見・早期治療のためには、定期的な健康診査・がん検診等の受診を促し、受診をきっかけとして、生活習慣病の改善に取り組む市民を増やす必要がある。そのような中、各種がん検診の受診率は、乳がん・子宮がん検診ではコロナ前の令和元年度まで受診率は回復しているが、胃がん・肺がん・大腸がんについては、コロナ前の令和元年度の受診率には回復していない状況があり、受診率向上に向けた対策が必要となっている。</p> <p>また、若い年齢期からがん等の疾病への理解を促し予防につなげるため、がん経験者の体験談の紹介や、学校でのがん教育を推進する必要がある。</p>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>■受診券発送</p> <p>■受診啓発チラシの配布・設置</p> <p>■プロスポーツや大型スーパー等と連携した啓発活動</p> <p>■ナッジ理論を活用した受診勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月末時点で5がん検診未受診者 20,704名へ受診勧奨はがきを送付。</li> <li>・がん検診手帳を作成し、無料クーポンに同封。</li> <li>・少ない操作で受診予約が可能な予約システムを運用。（予約申込：1,044件）</li> </ul> <p>■企業への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりパートナー制度の見直しにおいて、がん検診受診勧奨を引き続き必須要件とし、企業の健康経営を推進することで、従業員の受診率向上を推進。</li> </ul> <p>■がん教育等による正しい知識の普及や受診のきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校でのがん教育を実施。</li> <li>・がん体験者による講演会を開催。</li> <li>・乳腺外科医師インタビューによる情報発信。</li> <li>・子育てサークルやサロンなどでの受診勧奨を実施。</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p>■ナッジ理論を活用した受診勧奨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40歳男性にがん検診受診勧奨はがきを送付。</li> <li>・30歳女性に子宮がん検診受診勧奨はがきを送付。（やまぐち3070運動の一環）</li> <li>・5がん検診未受診者に対して、受診啓発はがきを送付。</li> </ul> <p>■がんに関する情報の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん情報ハンドブックを改訂。</li> <li>・がん予防に関する新たな情報冊子の作成を検討。</li> </ul> <p>■各地区での取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーや郵便局等で健康無関心層へのがん検診の受診勧奨を実施。</li> <li>・がん教育や子育てサークルでの啓発など、若い年齢期から理解を進める取組を実施。</li> </ul>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>山口大学、企業、医師会（医療機関）、協会けんぽ、健康保険組合、健幸アンバサダーなど</p>

## 6 たばこ、アルコール及び薬物【守る】

<b>現状と課題</b>	<p>喫煙者の減少とともにマナーの啓発や受動喫煙に関する規制強化の影響もあり、禁煙施設は増加し環境改善が進んでいる。</p> <p>一方で、従業員のたばこ対策（啓発、禁煙支援、受動喫煙対策等）を実践できていない企業は、約半数となっている。</p> <p>また、アルコールについては、市民アンケート調査において、適正飲酒量を知らない人が6割となっている。</p> <p>引き続き、喫煙やアルコール等が健康に及ぼす影響について、正しい知識を普及・啓発する必要がある。</p> <p><b>■飲食店等アンケート調査結果（R3年実施）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内禁煙を実施している飲食店等 59.4%</li> </ul> <p><b>■企業等アンケート調査結果（R3年実施）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たばこ対策を実践している企業等 54.7%</li> </ul> <p><b>■市民アンケート調査結果（R3年実施）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COPD 認知度 21.0%</li> <li>・健康に影響のない1日の飲酒量を知らない人 60.8%</li> </ul>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p><b>■COPDに関する啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーニング質問票を掲載したチラシを作成。</li> <li>・イベント（大型スーパー、プロスポーツ試合会場など）で啓発。</li> <li>・COPDデー（11/15）に合わせた啓発（市情報メール、LINE、インスタ）</li> </ul> <p><b>■小中学校でのがん教育を通じた受動喫煙防止等たばこ対策の周知</b></p> <p><b>■飲酒に関する情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報うべ1月号に適正な飲酒量やお酒が引き起こす健康障害などを掲載。</li> </ul> <p><b>■企業への働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座「たばこの害の正しい知識、アルコールの害の正しい知識」を実施し、たばこやアルコールの害などを分かりやすく説明。</li> <li>・健康づくりパートナー制度の認定において、たばこ対策を引き続き必須要件として設定。</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p><b>■小中学校でのがん教育を通じた受動喫煙防止等たばこ対策の周知</b></p> <p><b>■各地区での取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病予防やがん検診の啓発と連動した取組を実施。</li> <li>・イベント等での体験型の取組を実施。</li> </ul> <p><b>■企業への働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政情報出前講座や健康経営の推進などを実施。</li> </ul>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>企業、店舗、薬剤師会、小中学校、地域運営組織など</p>

## 7 地域資源を活用した健康づくり

<b>現状と課題</b>	<p>健康づくりを効果的に推進するためには、多様な主体の連携により地域の人的・物的資源を共有・活用し、地域の強みやネットワークを生かして健康づくりに取り組む必要がある。</p> <p>その取組として、地区健康プランに基づき、運動習慣の定着と生活習慣病の予防のため、地区運営組織と協働して地域の社会資源を活用したウォーキングイベント等を開催している。</p> <p>こうした地区での取組においては、参加者の固定化が見られるため、これまでイベント等に参加してこなかった健康無関心層に働きかけ、地域全体の健康づくり運動を活性化させる必要がある。</p>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>■<b>地区の団体や健康づくり人材による地域の特色を生かした取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の史跡を巡りながらウォーキングに取り組むイベントを実施。</li> <li>・地域団体が主体となって、運動習慣の定着を目指すイベントを実施。</li> <li>・地域全体の健康づくり運動を活性化するため、子どもから高齢者までの多世代を対象とした健康教室を開催。</li> <li>・健康遊具を活用した健康教室を開催。</li> <li>・地区の健康づくり人材（在宅栄養士等）によるサロンでの講話等を実施。</li> </ul> <p>■<b>地区での健康づくり人材活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区担当保健師等が健康課題に対してマッチングを実施。</li> <li>・21地区/24地区（87.5％）で活用。</li> <li>・健幸アンバサダーは、18地区/24地区（75.0％）で活用。 （健康サロンや教室での体力測定の補助など）</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p>■<b>地区の団体や健康づくり人材による地域の特色を生かした取組（継続）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域運営組織や健康づくり人材と協働した健康教室等を実施。</li> <li>・スーパー・郵便局・企業等と協働したイベント等を実施。</li> </ul>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>健幸アンバサダー等の健康づくり人材、教育機関、地域運営組織など</p>

## 8 健康に配慮したまちづくり

<b>現状と課題</b>	<p>市民アンケート調査(R3)では、運動をほとんどしない理由の第1位として、「時間の余裕がない」(38%)ことが挙げられた。</p> <p>特にその傾向が強いと考えられる働く世代の健康づくりを進めるために、企業等に働きかけ、従業員が健康づくりに取り組みやすい職場環境の整備に取り組む必要がある。</p>
<b>R5年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p><b>■健康遊具等の環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ときわ公園に設置した健康遊具を体験してもらうため、イベントを実施。</li> <li>・蛭子公園に健康遊具を新たに設置。オープニングイベントや体験イベントを実施。(高齢者総合支援課)</li> <li>・国道190号(常盤通り)のウォークアブル化に向け、常盤通りの副道で健康遊具の設置等を見越した社会実験を実施。令和8年度に整備完了予定。(中心市街地活性化推進課)</li> <li>・山口宇部ふれあい公園に県内初の大型インクルーシブ遊具を設置。(公園緑地課)</li> <li>・恩田スポーツパークの工事に着手。令和7年3月末に整備予定。(スポーツ振興課)</li> </ul> <p><b>■企業への働きかけ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康経営推進のための意見交換や市の健康施策、支援制度のPRを一体的に行うため、商工振興課と連携し活動。12社訪問</li> <li>・健康づくりパートナー(事業所部門)として、新たに2社認定。計14社。</li> <li>・健康経営支援補助金として、市内中小企業の健康経営優良法人(中小規模法人部門)の認定取得等に要する経費の一部を補助する制度を実施。R5は継続的に効果検証に向けて取り組む企業に対する補助制度を追加。R4実績3件。(商工振興課)</li> <li>・企業の人材確保の観点から健康経営を推進するため、健康経営優良法人セミナーを実施。市内企業の経営者など70人が参加。(商工振興課)</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p><b>■健康遊具等を活用したイベントの実施</b></p> <p><b>■健康経営の推進による働く世代へのアプローチ</b> 関係機関とも連携し、市内企業の健康経営の取組を支援。</p> <p><b>■健康づくりパートナー制度の見直し</b></p>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>企業等、商工会議所、商工会、協会けんぽ、生命保険会社(制度の紹介)など</p>



## 9 人材の育成及び活用

<b>現状と課題</b>	<p>健幸ポイント事業参加者約 2,700 人のうち、574 人（21.3%）が健幸アンバサダーからの口コミで健幸ポイント事業に参加しており（R3 年 9 月時点）、身近な人からの声かけが健康づくりのきっかけになっている。地域で健康づくりに取り組みやすい環境を作るため、地域での健康づくり活動の担い手となる人材を育成し、活動の広がりと継続、ネットワーク化を進めることが必要である。</p>
<b>R5 年度の 主な施策と これまでの取組</b>	<p>■<b>健幸アンバサダーの養成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生以上の市民または市内通学通勤者が対象。</li> <li>・ 89 人（目標 60 人）、このうち学生 60 人を養成（R5.10/1、10/2 養成講座開催）</li> <li>・ 専門学校や高校、大学と連携し、学生の受講を促進。</li> <li>・ 働く世代や学生も受講しやすいよう、日曜日の講座を開催。</li> </ul> <p>■<b>健康づくりサポーターバンク 新規登録者数 1 人</b></p> <p>■<b>健幸アンバサダー学習交流会</b> 理学療法士や作業療法士を招いて、7 回開催。参加者数（実 72 人/延 172 人）</p> <p>■<b>健康づくり学習交流会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12/14 総合福祉会館にて開催。</li> <li>・ 各地区の健康づくり推進団体等の関係者 53 人が参加。</li> <li>・ 「お口からはじまる健康づくり」をテーマに、歯科医師 2 名による講演、地区の歯科保健活動の実践紹介、情報交換を実施。</li> <li>・ 歯科医師会による無料歯科相談を実施。</li> <li>・ 歯科保健に関する活動紹介パネルや啓発教材、地区健康プラン等を展示。</li> </ul> <p>■<b>地区での健康づくり人材活用[再掲]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区担当保健師等が健康課題に対してマッチングを実施。</li> <li>・ 21 地区/24 地区（87.5%）で活用。</li> <li>・ 健幸アンバサダーは、18 地区/24 地区（75.0%）で活用。（健康サロンや教室での体力測定の補助など）</li> </ul>
<b>今後の取組</b>	<p>■<b>健幸アンバサダー制度の見直し</b></p> <p>■<b>養成講座や学習交流会による人材育成</b></p> <p>■<b>年間を通じた地区活動の継続実施及び健康づくり人材の活用</b></p>
<b>協働・連携する 機関等</b>	<p>健幸アンバサダー、健康づくりサポーターバンク、教育機関、食生活改善推進協議会、母子保健推進協議会、まちなか保健室、企業など</p>